

# 見たい！ 知りたい！ 五色台！

発行 香川県立五色台少年自然センター

〒 761-8002

香川県高松市生島町 423 番地

電話 087-881-4428

[https://www.pref.kagawa.lg.jp/goshikidaishonen/goshikidai\\_shonen/index.html](https://www.pref.kagawa.lg.jp/goshikidaishonen/goshikidai_shonen/index.html)

2021年 夏・秋号

## ～夏の夜空を見てみよう！

照りつける日差しが夕暮れとともに落ち着き、少しずつ涼しげな風が吹きはじめる季節になりました。空を見上げると夏の星たちが夜空を美しく飾っています。赤色に輝くさそり座の「アンタレス」や、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」にも登場するはくちょう座の「アルビレオ」をはじめとした、有名な星がたくさんあります。夜風で涼みながら、星を探してみるのもいいですね。

## ～夏の夜空に浮かぶ「夏の大三角」～

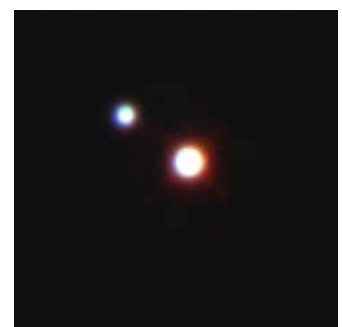
多くの星が輝く夏の夜空の中でもひととき強い光を出している3つの星があります。それぞれ、はくちょう座の「デネブ」、わし座の「アルタイル」、こと座の「ベガ」です。右の図のようにこの3つの星をつなげてつくられる三角形を「夏の大三角」といいます。また、「夏の大三角」を横切るように雲状の光の帯が見られます。これは「天の川」です。数えきれないほどのたくさんの星が並ぶことできれいな帯をついているといわれています。また、天の川をはさんだ位置にある「アルタイル」を彦星、「ベガ」を織姫星といい、七夕の日のおとぎ話として知られています。時間によっては12月ごろまで観測できるので探してみましよう。



夏の大三角周辺のモデル図  
(国立天文台の画像を元に作成)

## 何個に見えるかな？ 輝く二重星

右の図にあるはくちょう座の「アルビレオ」は一見、一つの星に見えますが、望遠鏡で拡大して見ると、二つの星が並んで輝いていることが分かります。このような星を「二重星」といいます。特に「アルビレオ」の二重星は赤色と青色の星が並んでいることから、「銀河鉄道の夜」では、トパーズとサファイアの星とあらわされています。他にも、こと座やイルカ座にも「二重星」があります。



アルビレオの拡大写真  
(国立天文台の画像を元に作成)

## 五色台で天体観測をしてみませんか？

五色台少年自然センターでは、星空の美しさや素晴らしさを体験していただくため、四国最大級の大型反射望遠鏡を使用して、月や惑星、星雲、星団などの天体を観望する「星を見る会」を開催しています。また、宿泊利用の方も天体観測を体験していただくことができます。詳しくは、当センターのホームページでご確認ください。

## 干潟の生き物に触れよう！

### ・干潟とは？

海の水は1日に2回高くなったり低くなったりします。高くなった（満潮）時は海の下にあり、低くなった（干潮）時に現れる砂や泥の土地を「干潟」と言います。干潟には、海からプランクトンが、川からリンやちっ素などの栄養素が運ばれてきます。これらが小さな生き物たちのエサとなり、たくさんの生き物が生活するようになるため、干潟は「生命のゆりかご」と呼ばれます。今回は、五色台の西にある木沢海岸という干潟の生き物を紹介します。



### ・砂団子を見つけたら

干潟につくと、小さな砂団子がたくさんあることに気づきます。これはコメツキガニが食事をした跡です。コメツキガニは砂の中のプランクトンを食べ、残った砂を上手に丸めて置いていきます。近くに小さな穴を掘ると、このカニが出てくるかもしれません。干潟は小さな生き物の大切な住処です。観察するときに、穴を掘ったり、石を動かしたりしたときは、必ずもとにもどしましょう。

### ・ちがいが分かるかな？

海に近づくと、2つの巻貝を見つけました。右側にある巻貝は「ウミニナ」と言い、丸みのある体と滑層瘤と呼ばれる白いコブのようなものが特徴です。ウミニナの子ども（幼生）は海に流されながら育ちますが、たどり着ける干潟が少なくなり、香川県以外では絶滅危惧種に指定されているところもあります。左側は「ホソウミニナ」と呼ばれる別種です。



### ・海のスナイパー

コメツキガニの巣穴と違って、斜めに傾いた穴があることもあります。その穴を掘ると、テッポウエビやハゼが出てきます。テッポウエビは大きなハサミが特徴で、捕まえようとするこのハサミで「バチン！」と音を鳴らして威嚇します。水中でのこの衝撃波はすごい威力で、小型の生物なら一瞬で気絶させてしまいます。現在、この衝撃波を起こす仕組みの研究が進められており、海水トンネルの工事などに応用されることが期待されています。

今回紹介した生き物以外にも、干潟ではたくさんの生き物に出会うことができます。しかし、干潟は工業用地やごみ処分場として埋め立てられ、数が減ってきています。興味を持った人は、ぜひ大人と一緒に生き物観察へ出かけてみてください。そして、干潟やそこに生活する生き物を大切にしてくれるとうれしいです。

